

## セーフコミュニティ・ポスターセッション2010

## 安全・安心についてテーマ設定

各部、セーフコミュニティに関連して2~3程度

## 部長による監修

## 発表

## テーマごとにチームを編成

- ・リーダー(課長)
- ・メンバー(5~6人程度)

※若手職員の参加に配慮

施策  
レベルで

ポスター  
作成  
(特大)

ポスター  
掲示

## 予防の重要性を強調

6月3日 ホップ

7月 ステップ

10月7日 ジャンプ

テーマ

現状を伝える

評価を伝える

改善を提案する

- 地域の現状は  
事業等の対応状況

- 発表の場  
としまコミュニティ大学  
「セーフコミュニティ」  
帝京平成大学ホール

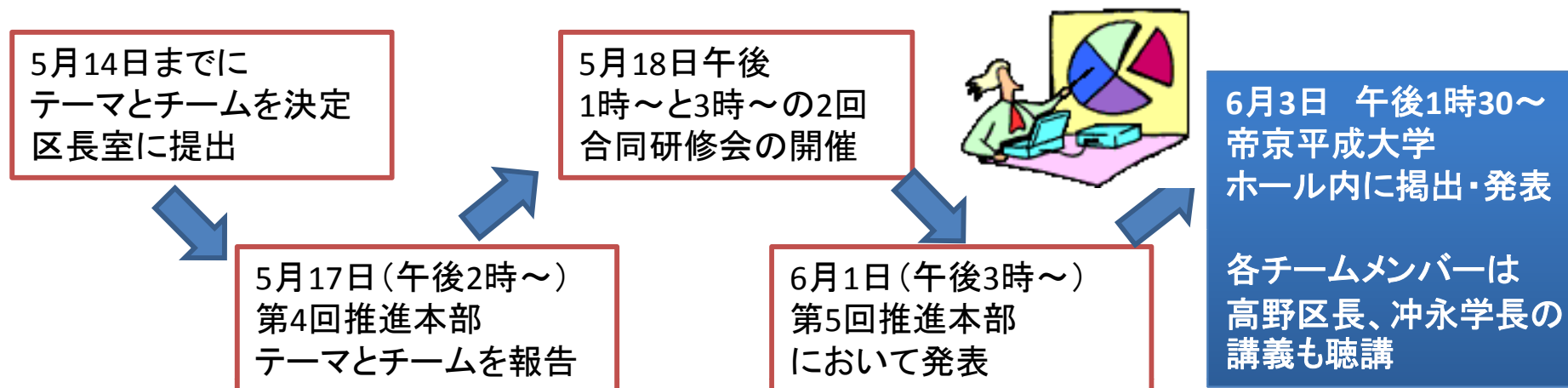
- 効果は出ているか  
何が課題なのか

- 発表の場  
合同発表会を開催  
区民ひろばの巡回や庁  
舎ロビー等を検討

- 効果を高めるために  
連携・協働等による改善

- 発表の場  
(仮称)セーフコミュニティ  
区民大会  
東京芸術劇場大ホール

## 6月3日「としまコミュニティ大学」での発表に向けたスケジュール



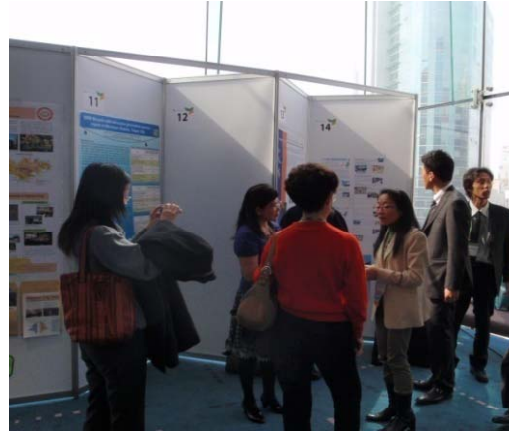
**約150人の参加を目標**

### 取組みテーマの事例(参考)

政策経営部	区民満足度、人口・世帯分析など	健康担当部 池袋保健所	子どもの事故防止、自殺対策、 がん対策など
総務部	繁華街の治安、災害時要援護者など		
施設管理部	公共施設の安全性、新庁舎など	子ども家庭部	虐待・DV、保育園やスキップの安全など
区民部	区民ひろば、医療費分析など	都市整備部	震災対策、住宅バリアフリーなど
文化商工部	消費者保護、事業所の安全など	土木部	交通事故、自転車利用の安全など
清掃環境部	環境美化、清掃事業の安全など	教育委員会	学校の安全、食育など
保健福祉部	高齢者の見守り、介護予防など	社会福祉協議会	CSW、ボランティアなど

5月～10月のポスターセッションにより期待すること

- ◆担当職務の中で、セーフコミュニティ活動を考え、理解を深める
- ◆120cm×80cmの限られた紙面で表現  
→ポイントとなる情報の選択
- ◆図や写真、グラフを使った、分かりやすい表現を工夫する
- ◆「現状」「評価」「改善提案」の3つのステップを設けることで、論理性を確保
- ◆チーム相互間で比較しつつ、連携・協働を促すことにつながる
- ◆一斉に発表する場を設けることで  
共通認識と達成感が得られる
- ◆一連のポスターは、ホームページや年度末の「セーフコミュニティ白書」に掲載して広く公表する



ポスターは、縦120×横80cmを2枚を作成

平成 22 年度 重点政策「安全・安心都市づくり」  
みんなでつくる セーフコミュニティ としま

豊島区は、区制施行 80 周年を迎える平成 24 年度に向けて、WHO(世界保健機関)が推進するセーフコミュニティの認証取得を目指しています  
子どもから高齢者まで、生活の安全と健康の質を高めるまちづくりに取り組みます

三つの課題に同時に対応

●セーフコミュニティは、これまでの活動を活かしながら効果を高めるべく活動です  
セーフコミュニティは、新たに特別な活動をはじめるとはせず、これまでの地域活動や事業を大切に活かしながら、「予防」に重点を置き、効果的な工夫や情報の連携を取り入れていく活動です。  
予防対策の効果が高まるために、子どもから高齢者まで、けがや事故等の状況や傾向を調べることは必要です。そして、地域の安全課題を明らかにして情報を共有します。  
事故や犯罪、暴カ、災害に関する「予防」の取り組みは、一人ひとりの住居や地域のコミュニティの取り組みが何より重要です。安全を起点として、地域の様々な活動や団体の新たな結びつきを広げていきます。

これまでの安全・安心活動をさらにパワーアップ

外部データの収集  
効果測定  
持続可能な仕組み  
原因分析  
予防活動の実践  
予防プログラム

部門横断的な連携・協働の広がりによる予防活動の活性化  
セーフコミュニティの認証取得を通じた学習  
けが・事故のデータ分析による効果的な予防活動の改善

地域の方で安全と健康の質を高めるまちづくりを推進!

●東京で初めてWHOの世界的認証に挑戦  
事故やけが等は、その瞬間だけではなく、長い間にわたって、心身の健康に大きな影響を与え、生活の質を低下させてしまいます。  
WHO(世界保健機関)セーフコミュニティ協働センターでは、一定の指標を満たし、持続的に安全と健康の質を高めていこうとする都市を「セーフコミュニティ」として認証しています。  
現在、世界で 190 の都市が認証を受けており、日本では平成 20 年に京都府亀岡市、平成 21 年に青森県十和田市が認証を受けています。  
「住みたいまち」「住み続けたいまち」を目指し、東京からは豊島区が初めて挑戦します。

今後の進め方  
セーフコミュニティ推進協議会の設置

活動期 けが・事故等の調査・分析 重要課題の設定  
検証期 重点課題の設定 学校

モデル地区の設定  
地区協議会  
ワークショップ

予防プログラムの検討  
新たな連携  
新たなアイデア

地域の安全・安心活動の効果さをパワーアップ!

●セーフコミュニティの認証を取得することで  
WHOによるセーフコミュニティの認証を取得することで、豊島区が取り組む世界基準に照らして確認され、安全と健康の質を地域の方で守っているまちとして、都市全体のイメージアップにつながります。  
安全・安心を創り出していくのは、地域を愛する一人ひとりの行動、そして地域コミュニティの活動です。皆さんのご協力をお願いします。

【編集・発行】豊島区  
セーフコミュニティ推進協議会 3981-1808  
防災課 3961-2100  
安全・安心を創り出していくのは、地域を愛する一人ひとりの行動、そして地域コミュニティの活動です。皆さんのご協力をお願いします。  
消防課 3981-1433  
池袋保健所健康推進課 3967-4172